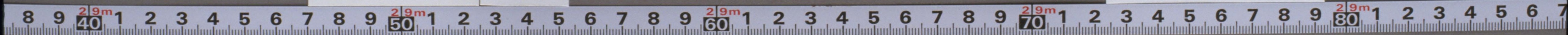




つきしま 3冊 02-001

国立国会図書館







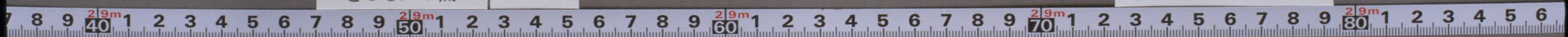
中

うゝゝゝりや二人の人々をあらうとせむとのか  
 せなりくしてうさふひなくともへともたの  
 とやおうれておやほまをの月とちりてう  
 ぬりてうてくともうまわぬをまねと務志  
 ぼくろり三年りたりをほくもなすくふこ  
 現ふうぬのれおふをりけりいれらるる  
 人の子のよまうりもむつみをもむしひん  
 子とむふかふひいんやあまを佛神よふせい  
 へてとて一人もちうひのうてまのひとま  
 たくひまふりてさ志強申ふかへちうてう  
 なひてれおく思ひさいうりたりやとく



つきしま 3冊 02-002

国立国会図書館







此をんをことせとておせりまのしも思ひよふへ  
 せまてふたつひやうふのくふくをむとて  
 むねねもひとせりけり女のこことり  
 ありぬるやのえねまのかりけいなくぬん  
 ましめといふまとい女のたごまはこつおさて  
 ひのつゆくつとたつねんまてつうやのえねと  
 下のうしてまぢえくまのよまつりなくみり  
 のおやふとやとりきたつひぬんとゆきか  
 むしなるまやあひいんせんし田あ  
 一ありつたたつぬれとてゆきはむくのう  
 されこ又あひいんせんししむのむら

ありまけいもあのおへるゆりうふのきぬ  
 されぬとのやれそひやうあのととてあり  
 けりつとて人のまゆゆあひいおさつ  
 ちくなくあつたもなるよもつりよもあ  
 まるのうんりさやとせまいへん



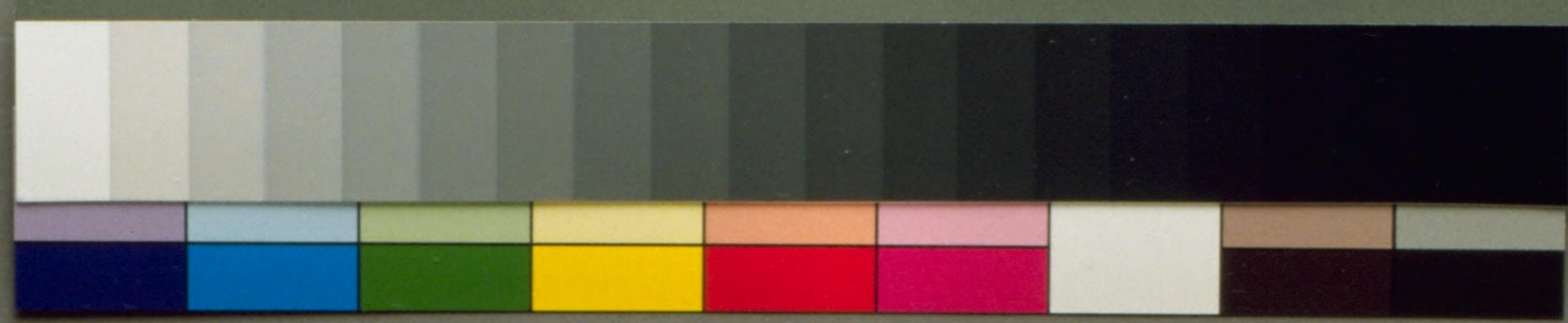




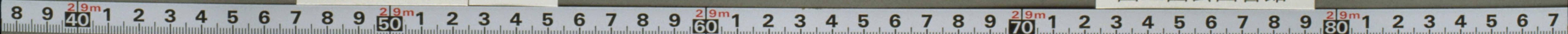
十してよは志がら三月十八日の夜つの一てんこ  
 さこまりひききそ人ららのまのらひよふりて  
 う月もすさ又月なからう月又月をよさ日もな  
 志とく六月十三日のひらの<sup>列</sup>國よそにまひり  
 現こられぬ物ちうそてもたをうるつて命よ  
 かつをこやしてうみ入られみくすも成るを  
 しやと思ひさううつられむまか一もふこ  
 此の思ひさいとくわれなうくもへしここ  
 志ううこ高野のえのく家も志りくささゆ  
 アア物たうさふもしもれうへこひめりゆ  
 くるやげと思ひく現をゆさやう思ひ(五)



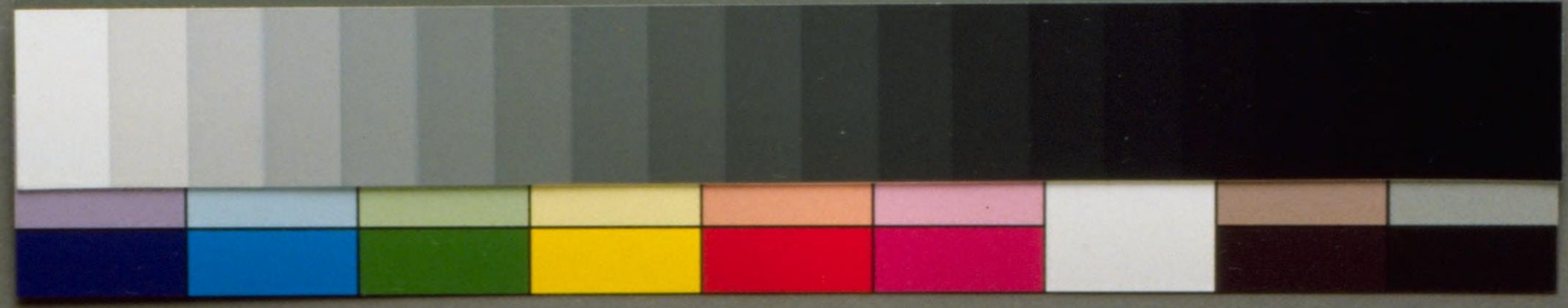




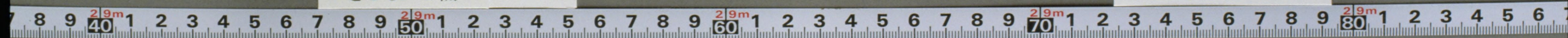
今さううゑのなみふまよの程ようせさるんま  
 らし物志る生き本らんううのうらちさうや  
 て親子のちさうををしつたさううんはひなり  
 りやうは思ひりううこのねんやけしりん  
 又祿のつくそやひひらんうんこのせま  
 まをふあつ女の山方へやまのたよりをひひ  
 けれきゆへいつよとたつぬれおたうへを津の  
 園にさるをちりさうんを記さうこのさやう  
 志なりさまよの人のまよあんとうんさくあんと  
 とてゆらひううも園妻のいのすすおくお見  
 けさうりくんとけくさう思ひのわりさ  
 のひ思ひうせぬれうとけくさくよとあち  
 えなく思ひさうてやうてとんせいし法園を  
 志ゆさやうはれうなんそのさう対名月女の  
 まいふことや夢も思ひよらをぬりぬり門を  
 見いふたくとんとそての上の河まう跡取を忘  
 てやとらうりさもあれ園に記きんせんや共こ  
 のううの人をさうとられぬるよとあさま  
 うそ物となく一志也のうと志いしり  
 うふよそとをさひてくも一すちよ  
 人れう人よもうふさそはく  
 うやううい志いしやうささかり



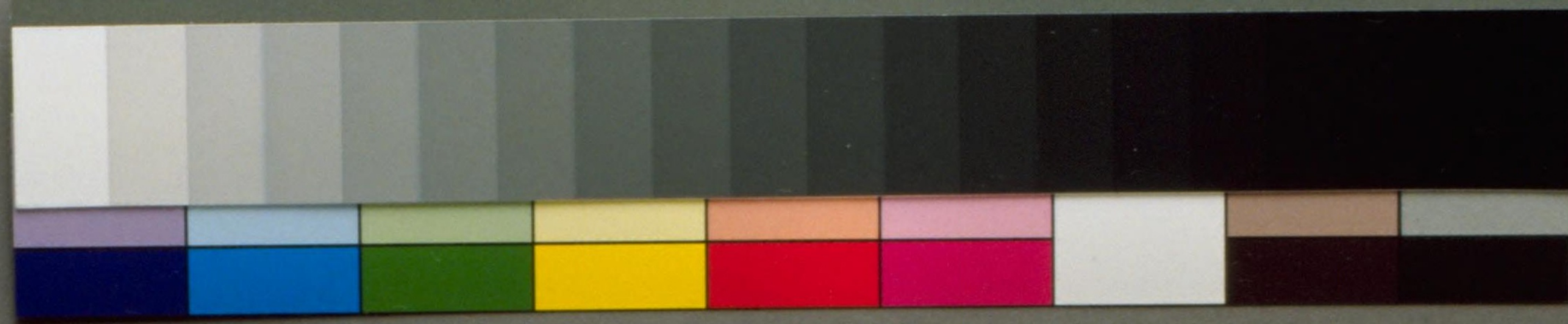




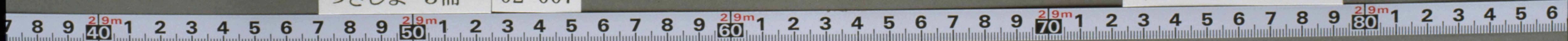
ありやふ月々とのありちりく近座ありあの  
 今のうゝをえあつてつとやらんじゆうらさ  
 とふ人預りてあぢまやうとややつりあの人  
 そとくまをねもあぢまやうとやあつてあさ  
 ちりあぢまやうとやあつてあさ  
 さそつてあぢまやうとやあつてあさ  
 津の國りんさだのもつてあつてあさ  
 りんさだの物とあぢまやうとやあつてあさ  
 氏とあつてあぢまやうとやあつてあさ  
 もとあつてあぢまやうとやあつてあさ  
 ぶふあつてあぢまやうとやあつてあさ



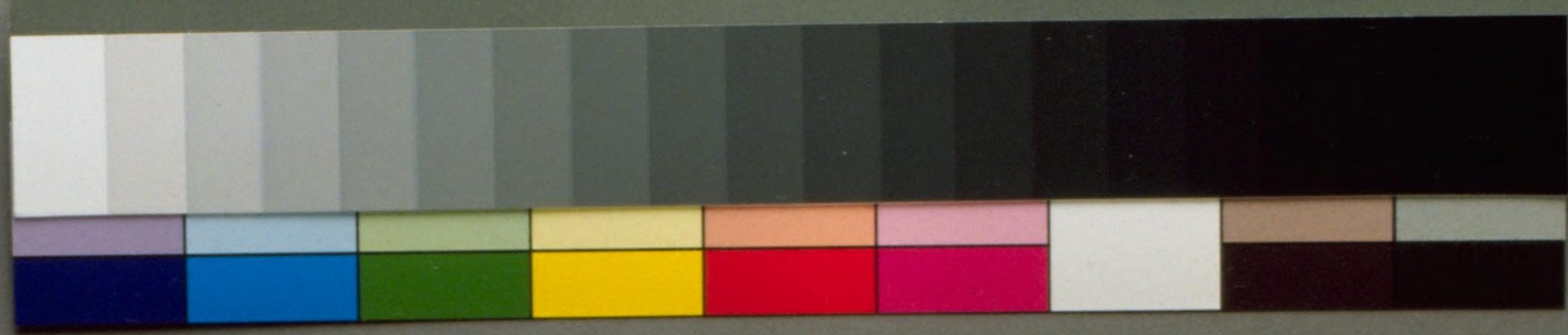




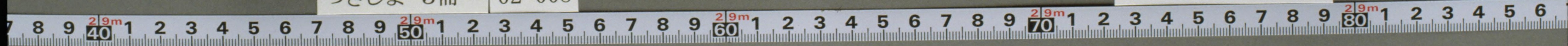
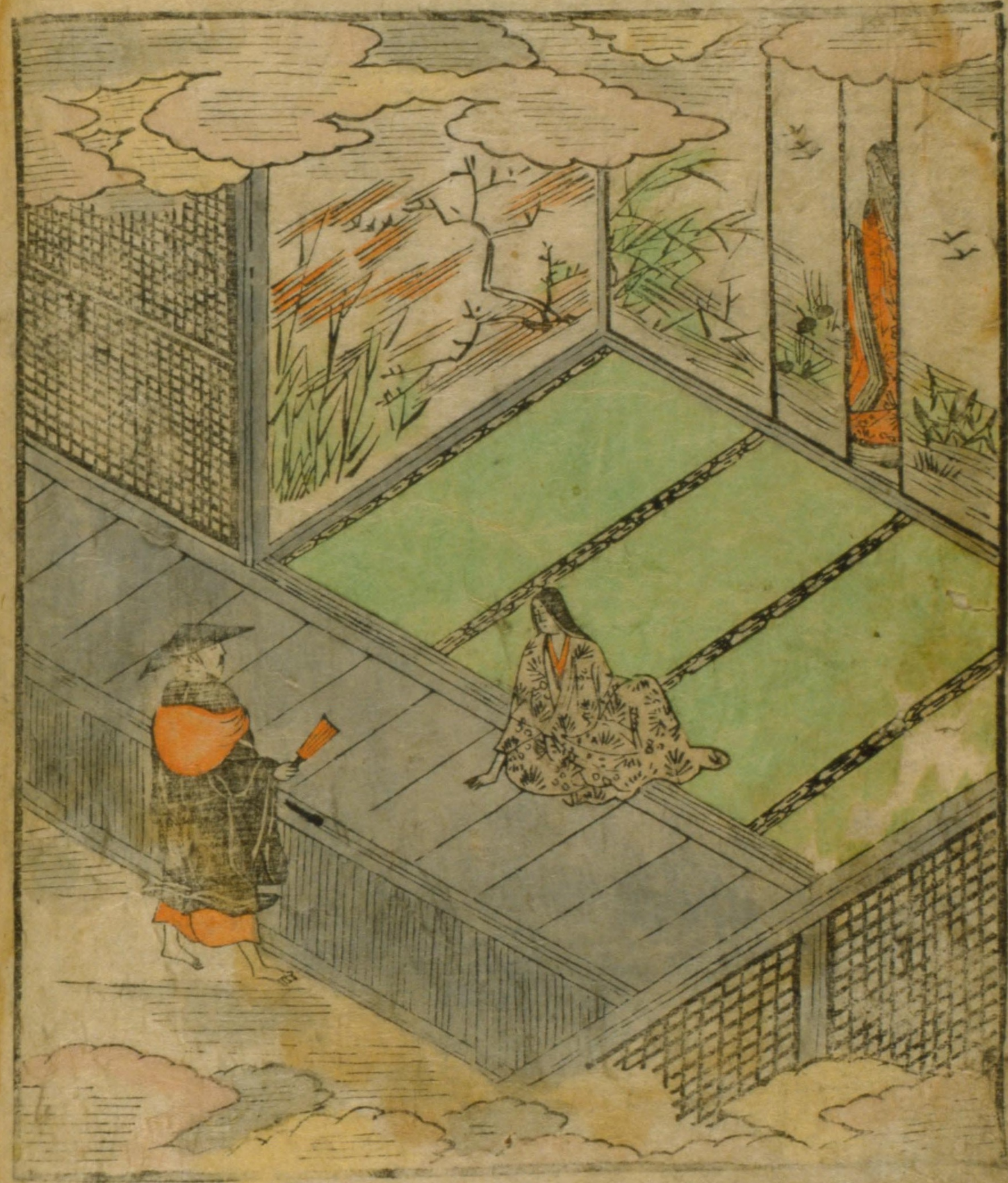
こそと思ひもてくも一すり小人以上よるうき  
 業そぞとくらむをさる見給ひ志をさしてよりをま  
 小幸のひう志申さやう取て人のうんとすもま  
 かつ志のゆらひかふをうけくこ中をさつたつ  
 てさうきやうさんだうへさつての國にまゝ入給  
 のみつまひまひやうめをへ口ふさうと中人の  
 ひらひししう一人むのたもつたさのを明かた  
 こ小まこひれさ者のあひさふさういやうこひ  
 つしう罪まもあひをさう志となく志お値をりふ  
 てのましし町そつとみさうり志のあくるるさ  
 こひと取てよましくあくるをけくさうと思ひ  
 の初りすりのひ志のうせめさうおたうへ  
 なくよ海わらふなく思ひさうてやうてこんさ  
 いしりやうは法蘭すのくりはりは二三日こ  
 ま程まあさん人たしりまあうさうれ事なつ  
 けてうへもふ月女のもくやこ年の秋び有しを  
 なくき給ひぬ英國を此を高堂のまひまくとん  
 せいししあまあくと志也さうはれとそ共こ  
 のううの人こらうしさうま六月廿三日より  
 志のつられつさう志とけさへやあふゆるま志  
 人乃ゆくをさうしりたりゆくとらまうしり  
 れまこなくしりさまがつねぬれとす



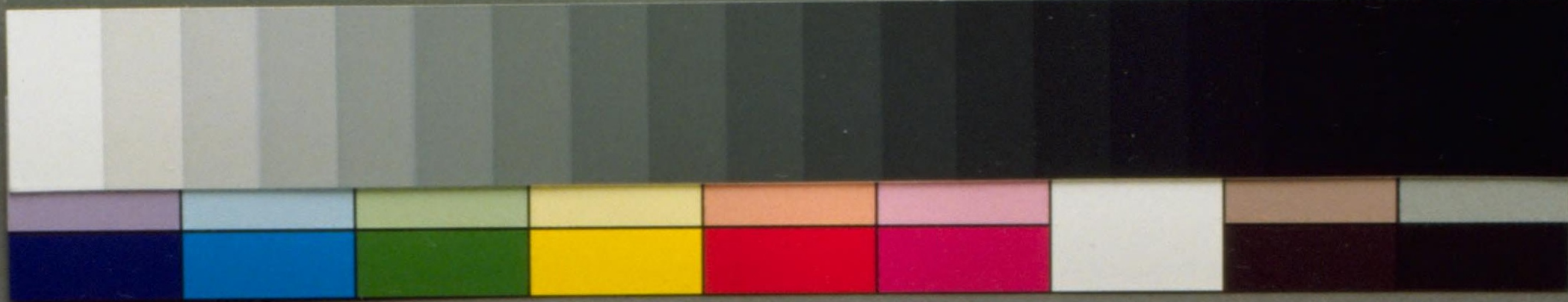




名月ハいづれかゆのつゆをまへまうけらう  
 けこりやとまへに瓜蒞るうさぬてつり  
 ふこたのぬきせ給へまふさのこりしとせ  
 だひひさようさのうやうまなり奉ときひつ  
 申へのしなれし給をよけけくうさのつと  
 まささうてまともなりよろれみふのもも  
 けりやせたりと残りかよそりわりの名月を  
 さしり絶えさう奉る志うや植るまふてのあり  
 志呵ののさ記またまつことを引ひきいて神物  
 せしおともの下女うむらひ死てみわうさる  
 よこりするすなかりんとみまわれとせひもん



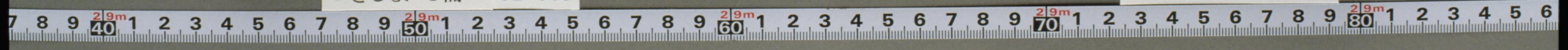




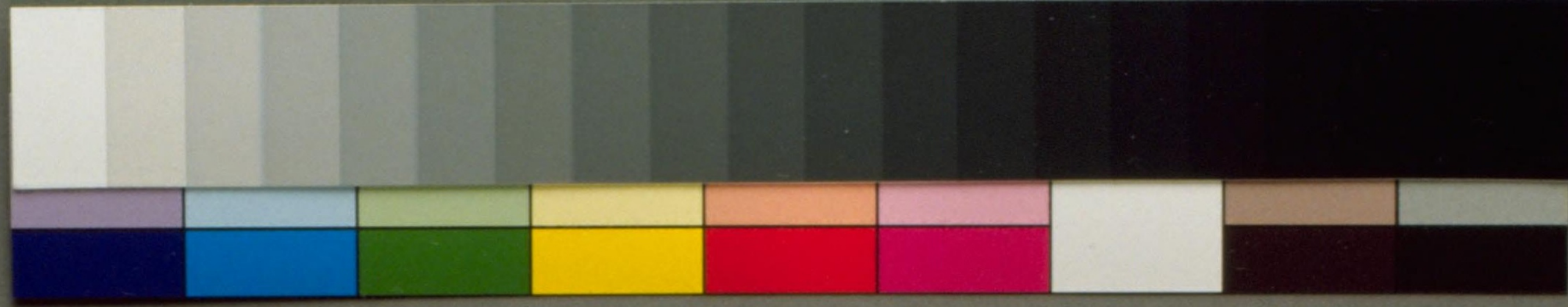
らぬ花をみく霧にさへ けんりうりさよもさよ  
 風のためり 跡ぬひんと 思ふ雨も あり 留さこ  
 りんりさよさこへ なるしやう道のり ねのたふ  
 じやひてふ人と 書くのそ おくよ一た也のうと  
 残つてさうきくも ありし なりてさよとされりと  
 ぬぬくれぬといふて まりなん

とりさよとつし 水くさよと 只おが明くつり  
 思ひなりすてさよと 思ふのありしうや 我を  
 之のふのこひふちも 今さて 三粒そよしなま 我  
 申へのやうまかなん ありさよと かくのふも 互出  
 又さよのほしと ともと ちんりくをとも 色を

我由ありやうよ ながらく 何とさすうつり とと  
 のしとろのま ち幸の 兼もつみく ねくおけつれ  
 思ふのひんりも 也のと ちやふつ 志也 さやう  
 志やう 町建うたて ちやうま やとて まんちやう ぬり  
 く入 ちひさぬひさつ ちさたて ちやう ちやうてい  
 こつれた ちひさり ちやう ちん ちの 國を ちん  
 ちの一とく ち下つち ありて 三日の ちま ちま  
 國よ ちちふ ちこり ちらみ ちらま ちらま ちん  
 らあ ちちり ぬも ちちり ちまう ちちり ちん ちん  
 さやう ちひさ ちり ちまの ちの 女し ちち ちん  
 て ちちり ちち ちん ちら ちち ちひて ちちり ちん ちん

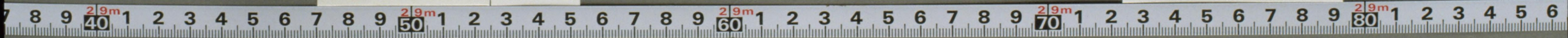






どのふまきしをりもつうさゆふりくの命も  
 りしらしと作つてと致そのもたの魚を兼せ  
 ふまされ共二人よんこの遊をたたらりて  
 のしよふりきてたとてゆくつのみくさ山と  
 しよこまのつらみ道わがしうたここれたと  
 ありふらひにありこつゆふたちよりて一  
 わりたさひたりりてもまてぬよしなれも  
 月海ふまびさかののくことわりしつて  
 あうてんりやうくこつけたらおれす人  
 のまつふこいのもまふりりをりつるゆ  
 見らさるよこも見うては見んいてさるゆ

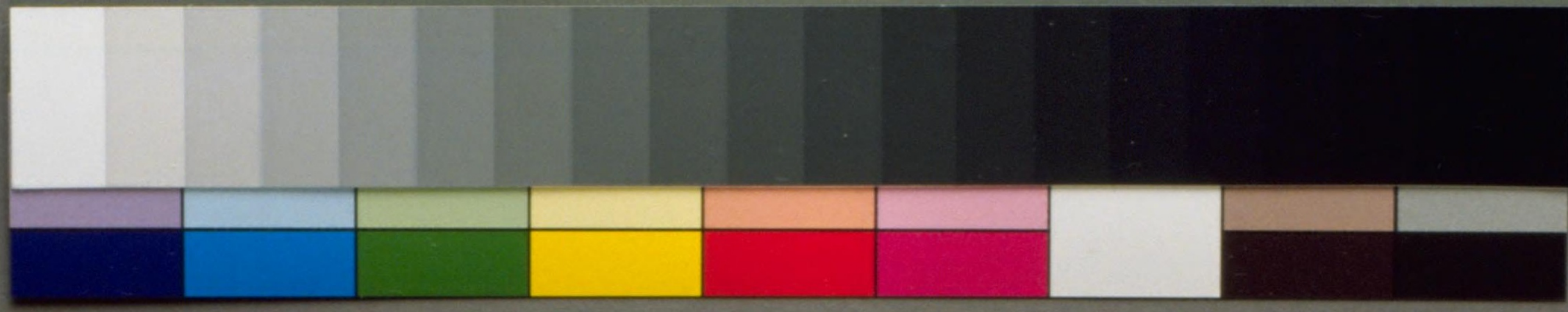
とうまといけりよまふゆませいやくよまよへ  
 と物とてつるへを道のなりれらんりて二人  
 のんくうれぬ志たすぬたまこのあまふよひ  
 ゆくやりやそのまきつをもちり志山人  
 一めんゆまふまは山人のまらさめり  
 志まや林まらりつるまのたさまやうり  
 やまをなへし霧をまけまよぬれや志くれ  
 ふまゆるもみらしくまきの内ハへさくおの  
 ひゆりひぬれよらうのやりんれまも  
 つうてうてしかれままをまかふまら  
 るのたよりまらまかまらんまらまら



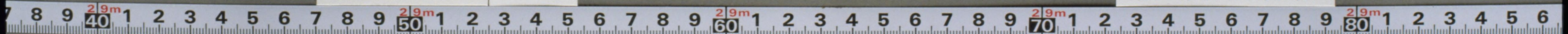




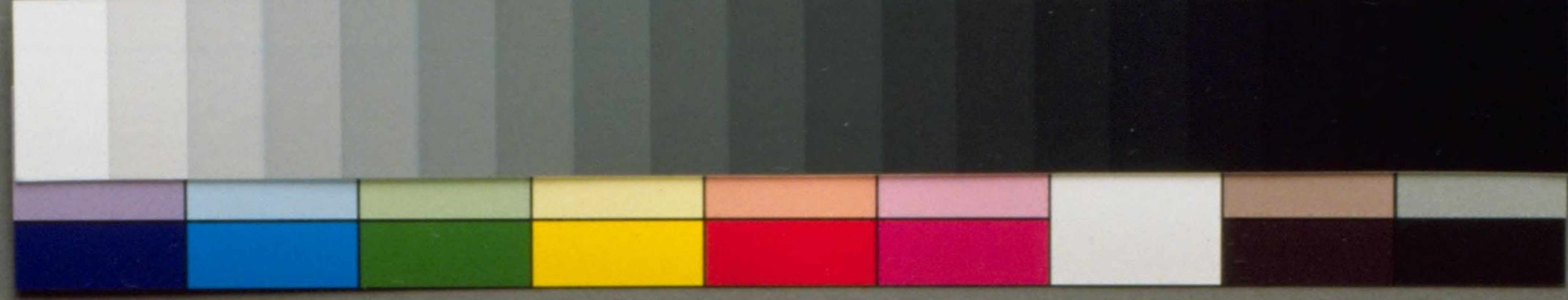




は山人の歌てさういふもば道程りくくを  
 伴もなくしてこたへへ出久とてたふ所を  
 海りそし道由さののとも名月たりひふたも  
 と道程りりくくいふく道程りりくくいふく  
 といふもあつてさやいふへいふもこへの  
 おひわけと申て山を年人まつたふも  
 なるも申ゆらいのゆりたつてふりや申あま  
 ろへをまあしもゆきとつりきぬふ上らう  
 さらしてあまをいふんふらふらふらふらふ  
 ぬたりのれは流るへ海へ三ちのひをの連をひ  
 ろたうそこへ下れとらり海人てそなふ人ゆり





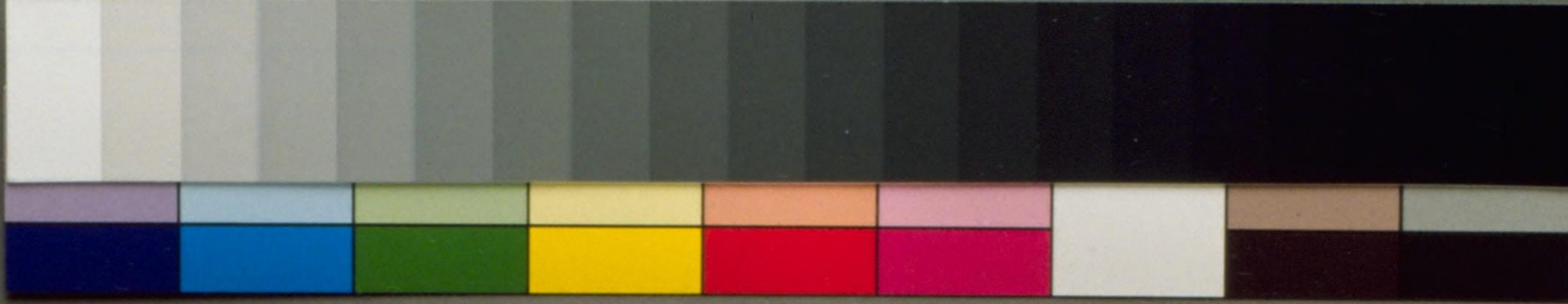


せつふれたつ三へとあゆま一たんたつふと  
 しろくわひりのかこをほらんせられはらへ  
 みかといさいたりもりんりてを絶のまひ  
 けつんものり雲井よさうせぬの引やわさ  
 みをりんときてんまう一値ちのたまもみへ  
 ぬかしましをわうたりさここおかくたは  
 とつふくさなりむうつをのれなふあうそ  
 あのううまくひさうさり色まつつみちのへれ  
 いうすいおかくとあうむわやあまうてふさて  
 ひやうあのううおのまつけてすくうりゆりせ  
 むふてなとまおかゆり目つあちさうり

頂いとま中一とて山人をまひよとまらり絶  
 のとと志うもあともよまふまろしき山の  
 内道志れへきうきしきよとつりさる毛し  
 山人よそふもあうたねたのまをうけやを  
 くらすのたひたまんのや山人とらんしぬふ  
 りやありあつこよとあつてはくさうもふその  
 うさうらなれあ物の物くまうりなくさみく  
 やうくゆりし津の國れひやうあめううり  
 所つせつひたりまう人よゆさあもせつひへ  
 んららのゆくへたつひさきたへむい  
 ひとうあてあうしてひとりらゆくをよて

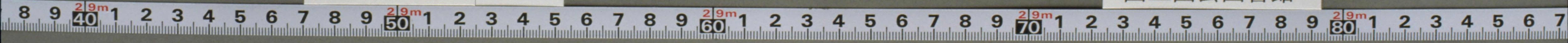






此のぬまよりたらしすものよめんふいをもと  
 ちうきやけまをもつしむたらん物成やうい  
 ぬまひこりらまをまこまこのつさせた海へ  
 といふよ上らううらをひこけくまひやきし  
 とくまのちより包て中へかり中へく思ひも  
 よらぬ事なりこのつこまてくこ成るささうま  
 たりと成りまこさへてたつめらまをもけく  
 とまこころよやまをいめてはつまおむくらせ  
 けふまをもんこのぬまを三日のうまら  
 せふて我志也くまよまらまらん此はうらの  
 ものらまじりつこれふりんたまうまごま

衆ののこれ女より引くしてうまさをけい  
 ていおいのふたつねや勝とてぬまかへくも  
 まらまさをいりくをせんとやぬまげてや  
 きのまむらこのりなとまんや小まへみまこ  
 けまこくまうまをくまへたまをすまといまこ  
 わまこましてつひま値たまひしまらにみれ  
 こらま志ま事を書むまけふまふく今まや  
 なるまらぬのまんやまらりしにま  
 といゆつく思ひよらまらまままのぬま  
 をぬのたまらまらぬまらぬまらあうも  
 うらまらまこのまらまらまらまら







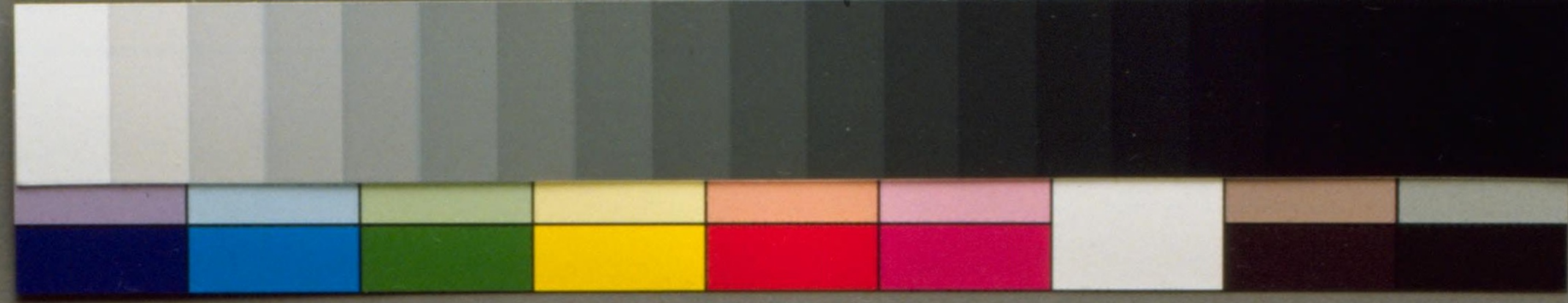
そくねんをこ年の秋びなりやうりせはひ  
 ちいふらやうやうのちとんせい  
 法蘭をたゆまやうのこあくそそ兵あめうの  
 人こらうりこられきふともむともぬさ  
 こ強さふぬいそぬるあまの志んりけさ  
 こうぬこのうらもきん地をあもい  
 そきゆさらこの命りりもれしこれもた  
 らしうれわふいりかろままはれぬふとを  
 思ふとせれすあかふいとふてふひた海人と  
 うさくこのりぬあまをみくこわいり  
 ひやうあめうの人こらうり大いよ思ひ

廿二

けらそのふけさとせひ志うえのよりつ我  
 たりこのふさこの毎と成わることよ道なり  
 こころやさうれううねてきひよくねん  
 こころさうさうまれとや夢けり志うて  
 もせたぬしぬそとぬそのもりあめこい  
 こやうそそ月ほとまひやうあめううまは  
 たこたこたのぬけうまひやうこひあしと  
 かせとこひまやけふをあらまこまや女さ  
 やまなけのひうまもやうもなうく  
 かせうつをれうまなり







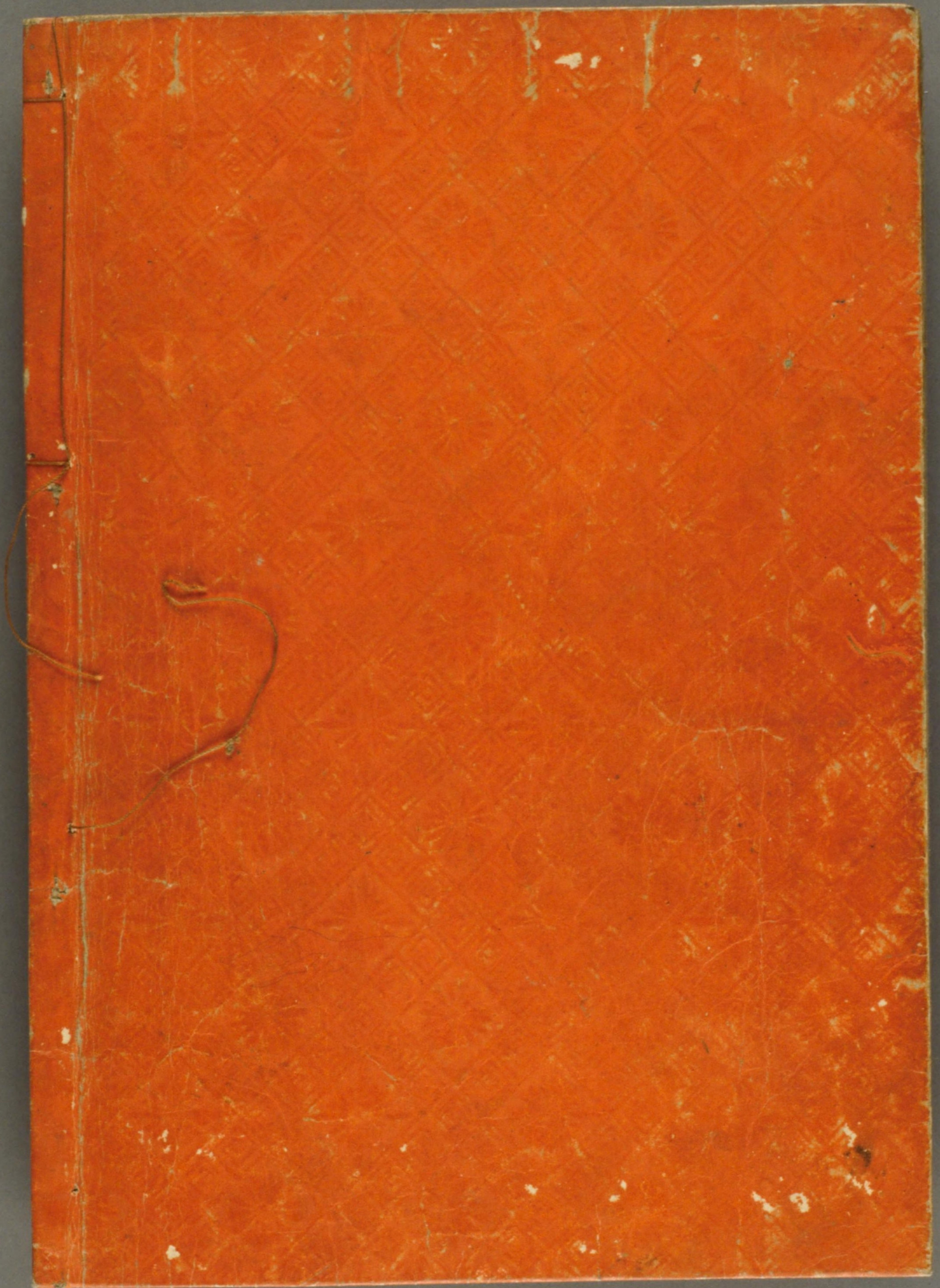
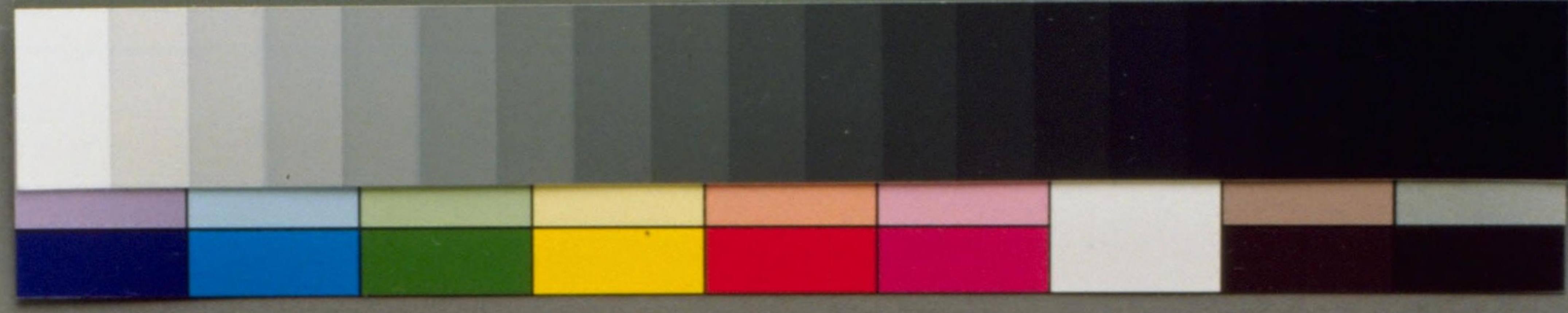
国立国会図書館

つきしま 3冊 | 02-016

国立国会図書館







つきしま 3冊 02-017

国立国会図書館

